

まえさわ



猛暑の中、たすきをつなぐために力走する選手たち

第25回まえさわ駅伝競走大会(市教育委員会など主催)が7月25日、前沢いきいきスポーツランド発着で開催されました。地区の体育会や振興会、中学校の部活などで編成された23チームが参加し、沿道の声援を受けながら盛夏の前沢路を駆け抜けました。

ことは参議院選挙の関係で、例年より遅い時期の開催に。当日は気温が30度を超える真夏日となりましたが、選手たちは仲間がつかないたすきのために、懸命の走りをを見せていました。優勝チームは、一般の部が生母体育会、中学生の部は男子が前中サッカー部A、女子が前中女子バドミントン部Aでした。

汗振り絞りたすきをつなぐ
まえさわ駅伝競走大会に23チーム

まちの話題



かわいい子には旅をさせよ

水沢青年会議所主催「奥州歩破5区の細道」



そろいのかさと杖で、仲間と助け合って歩き続けました

小学生が市内55ヶ所のコースを歩いて巡る「奥州歩破5区の細道」が8月2日から5日まで、3泊4日の日程で行われました。市内の小学校に通う4年生から6年生までの児童35人が参加。救急救命士を含むボランティア30人と一緒に、長者ヶ原廃寺跡や白鳥館遺跡、水沢競馬場などを巡りながら、地域食材を味わう旅に出ました。

これは、水沢青年会議所の青少年委員会(高橋賢委員長)が、「奥州は1つ、かわいい子には旅をさせよ」を合言葉に、地域との触れ合いや成長を願って企画したものです。子どもたちは、昼は暑さの中を歩き続け、夜は小学校の体育館で宿泊。各地で受ける差し入れや声援に励まされながら、見事にゴールしました。真城小6年の小田原拓海君は「体も心も強くなった。目的地に着くたびに達成感を味わった」としっかりと口調で話していました。

えさし

浅草を舞台に鹿たちが舞う

浅草の祭りに地元鹿踊団体が出演

日本有数の観光地・東京浅草の浅草寺かいわいで行われた浅草奥山江戸町まつりで6月27日と7月11日、奥州市が誇る郷土芸能・鹿踊の公演が行われました。

江刺ふるさと会(菅原忠雄会長)の尽力で公演が実現したもので、出演したのは、6月27日が鶴羽衣鹿踊(江刺区稲瀬)、7月11日が金津流梁川獅子躍(同梁川)です。公演は1日に計8回。踊り手たちは、30度を超す気温の中、15℃以上の装束を身に着けて熱演を続けました。勇壮な舞と「ダダスコダン」という太鼓の響きに観衆の熱気も上昇。公演が終わるたびに、大勢の観衆が踊り手との記念撮影をねだっていました。



大勢の観衆が見守る中で行われた公演

校舎に響く歌声と楽器の音

若柳小学校記念日ミニコンサート



プロの演奏を楽しむ子どもたち

7月9日に若柳小学校(百済晶子校長)の多目的ホールで「学校記念日ミニコンサート」が行われました。同校では、平成11年に新校舎に移転した日を記念日としており、毎年、文化イベントを実施しています。全校生徒に加え、保護者やお年寄りも参加して開催されたこのイベント。今回は、同校の卒業生でもあるタマ・チャールズさんと亀井泉さんを迎えて、ドリマトーンやピアノカ、エレキギターなどの演奏や歌を楽しみました。子どもたちは音楽に合わせて飛んだり跳ねたりし、最後はジャズバージョンの校歌を割れんばかりの声で歌ってコンサートを締めくくりました。

みずさわ

こころを育てる夏の風物詩

30周年を迎えた水沢寺子屋事業



みんなで協力して記念壁画を作成

青少年の社会参加活動を目的とした水沢寺子屋事業はことしで30周年を迎えます。7月28日から8月4日の期間、水沢区内7会場で開催されました。

黒石地区では藤春院(松本一箭住職)で7月30日から1泊2日の日程で、座禅や竹工作などに挑戦したほか、30周年記念事業として壁画を作成。これは、ハガキ大の台紙に正方形の色紙を張り付けるというもので、すべてをつなげると1枚の大きな絵になります。10月10日に完成披露が行われるこの壁画。一体どんな絵が出来上がるのだろうと想像を膨らませながら子どもたちは作業を楽しんでいました。

新品種の誕生に夢が広がる

りんどう収穫式でPR

リンドウの新品種「いわて夢あおい」の本格出荷に併せ、「りんどう収穫式」が7月9日、衣川区増味の森松久夫さんのリンドウ園場で開かれました。達増拓也岩手県知事や区内のリンドウ生産者、あゆみ園の園児らが参加し、リンドウの収穫や意見交換会などで新品種をPRしました。

「いわて夢あおい」は、県が開発したオリジナル品種で、ことし1月に品種登録されました。市場関係者から要望の強い新盆の需用期に、路地栽培での出荷が可能です。県内作付け面積は約311㌥で、今後、さらなる作付けの拡大が見込まれています。



新品種を収穫するあゆみ園の園児